

樹脂&複層ガラスで温度のバリアフリー化 高性能樹脂窓 APW330

樹脂窓とは、窓のフレームが樹脂製で出来ている窓のことです。樹脂はアルミに比べ、格段に熱を伝えにくくなっています。家の中で最も熱の出入りが多い「窓」の断熱性を高めることができます、快適で健康な暮らしを実現するためのポイントです。ケントホームズでは、樹脂サッシとLow-E複層ガラスで国内最高レベルの断熱性を実現しているAPW330を標準採用しています。



樹脂窓の性能が 年中快適なおうちを実現

APW330は、フレームもガラスも、アルミ複層ガラスと比べ、外気温の影響を受けにくく、夏も冬も快適に過ごすことが可能です。温度のバリアフリーを可能にする高性能な窓の代表格といえる存在です。

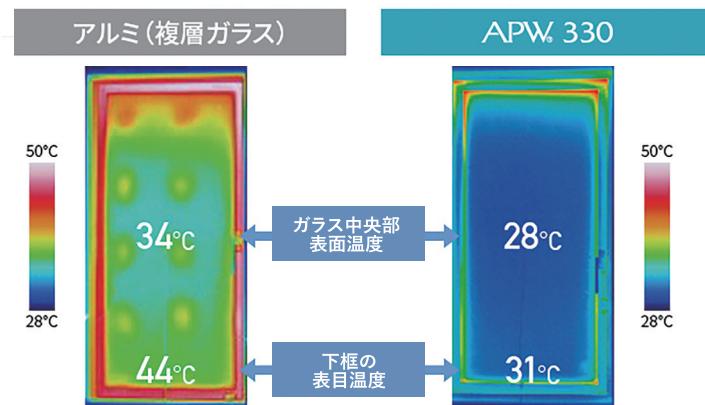
外からの熱気の侵入を防ぎ 夏の住まいを快適に

南面に差し込む熱量は、冬でも電気ストーブ2台分と言われています。夏の暑い日であればその熱量はかかり知れません。しかし、APW330は、暑い夏の窓辺でさえその熱を防ぐことが可能にします。

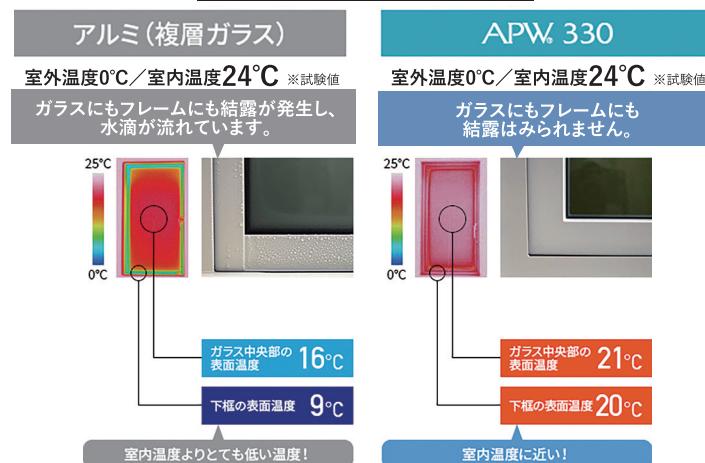
冬の窓辺のひんやりを解消 住まいの結露も同時に解決

ひんやりとしやすい冬の窓辺も、APW330ならあたたかく過ごせます。また、室内外の温度差によって発生しやすくなる結露も、高い断熱性で防ぐことを可能にしました。結露をしないため、窓辺にカビが生える心配もありません。

夏の窓辺の表面温度比較



冬の窓辺の表面温度／結露比較



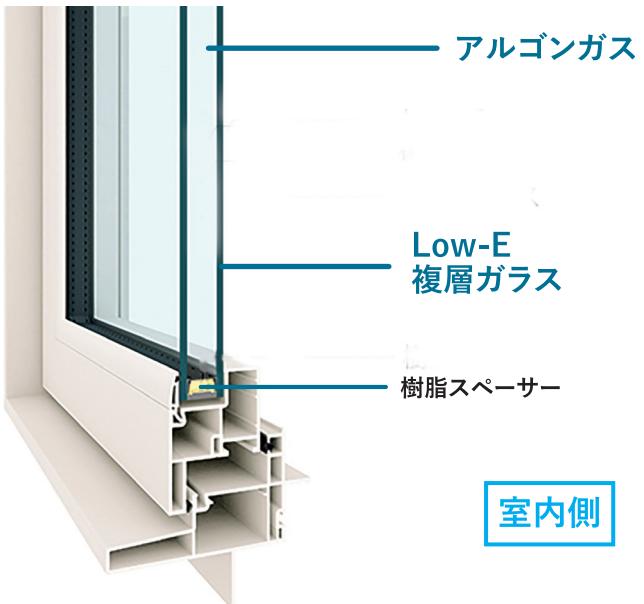
樹脂+Low-E複層ガラスにアルゴンガス封入で 国内最高レベルの断熱性を誇る



室外側

樹脂スペーサー仕様

熱貫流率
1.31*
W/(m²·K)



室内側

たてすべり出し窓+FIX連窓[16513サイズ]
LOW-E複層ガラス／ブルー／アルゴンガス入
※JIS A4710:2015に基づいた社内検査値

驚きの熱還流率の低さと アルゴンで断熱性アップ

断熱性を測る値として「熱貫流率」というものがあります。熱貫流率とは、室内側と室外側の温度を1°Cとしたとき、窓ガラス1m²に対して、1時間のあいだにどれだけ熱が通過するかを示す数字で、値が低いほど 熱の移動が少ないと示します。APW330は、熱貫流率の値が低いでなく、アルゴンガスを追加することで、さらに断熱効果をアップさせます。

熱伝導率の数値が低いほど、断熱性能は高くなります。

	熱伝導率 [W/(m·K)]
アルゴンガス	0.016
空気	0.024
ガラス	1.0
アルミ	209.0

アルゴンガスの
熱伝導率は
空気の1.5倍
の低さ

窓種別でみた
「ガスなし」「ガス入り」比較

窓種	熱還流率U値[W/(m ² ·K)] エピソードNEOの場合	
	ガスなし	ガスあり
たてすべり出し窓	1.89	▶ 1.76
引違い窓	2.05	▶ 1.90
引違いテラス窓	2.05	▶ 1.90
片上げ下げ窓	1.97	▶ 1.83
FIX窓	1.89	▶ 1.76

※自己適合宣言数値より

年間冷暖房費の比較(暖房24°C／冷房25°Cの東京での場合)

樹脂窓を使えば、 年間冷暖房費を節約

断熱性の高い樹脂窓を使用することで、エアコン効率をアップさせ、冷暖房費を削減できます。

